

学校保健

平成11年1月1日

No. 225

(財)日本学校保健会ホームページアドレス
<http://www.hokenkai.or.jp/>JAPANESE SOCIETY
OF
SCHOOL HEALTH

(財)日本学校保健会

年頭にあたって

(財)日本学校保健会 会長 矢 野 亨



我が国は目下変革のただ中にあります。その主たるものは、財政であり医療福祉制度であり、私達の関与する教育の制度であります。

本会では文部省と協力して、約20の委員会活動を通じて報告書や指導書を出版し、学校現場に役立たせていただいておりますが、昨年度からスタートしたインターネットホームページは、エイズネットワーク

と共にこれからの学校保健情報の伝達に大きな力となるものと思います。

文部省は昨中央教育審議会の答申を受けて「生きる力」を育むためには、学校・家庭・地域が一体となった取組みの必要性を提唱し、更に教育課程審議会の答申に基づいて、2002年から週休2日の実施に向かって新たに「総合的な学習時間」の設定をあげております。その活用の一つとして、心とからだの健康教育の場としての学校保健委員会活動が考えられます。これからの学校保健委員会の一層の普及と内容の充実がのぞまれます。

昨年、本会の6部会構成（学校医、学校歯科医、学校薬剤師、学校長、保健主事、養護教諭）に加えて、新たに学校栄養士の方々の参加を得、既に委員会活動に参加していただいておりますが、本年からは更に、家庭や地域での学校保健の担い手であるPTAとの連携強化を図って行きたいと考えております。

学校保健関係者皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

目 次

年頭にあたって	…1
座談会 学校保健委員会の 活性化を求めて	…2～8
北から南から	…9
対応は早めに	…9
叙勲・表彰者	…10～11
虎の門	…11

会報をよくするため、読者のご意見を求めています。お葉書をお寄せください。

乞御回覧

校 長	教 頭	保健主事	養護教諭	P T A	会 長	副会長	

座談会

学校保健委員会の活性化を求めて

—地域に根ざした健康教育—

出席者

司会

日本体育大学教授

蔵市立塚越小学校校長

市原市立国分寺西中学校養護教諭

高崎市立寺尾中学校保健主事

吉 田 瑩一郎

上迫田 健 二

米 元 まり子

熊 倉 幸 子

○はじめに

吉田(司会) いま学校では、2002年になると完全学校週5日制になって、子ども達は家庭、あるいは地域での生活の時間がますます長くなってくる。そのため、開かれた学校、学校だけではなくて家庭や地域の教育力を高めていくのに、学校はどうしたらいいかということがいろいろ問われているところだと思えます。

そういう中であって、健康の分野では、心の健康の問題にしても生活習慣病の問題にしても、大きな学校の課題ないしは社会問題になっているわけです。そういうことで、平成9年9月の保健体育審議会の答申でも、学校と家庭と地域を結ぶ組織としての学校保健委員会というものをもう一度見直して、活性化していく必要があるということを提言しています。そこで学校保健委員会をどうしていったらいいのか、今日は3人の先生に具体的にいろいろお伺いしていきたいと思えます。

学校保健委員会は、そんなにいいものなのでしょうか。熊倉先生。

○学校保健委員会はすばらしい

熊倉 はい。高崎では40数年間学校保健委員会をやってまいりました。以前には小中学校で年に7～8回から10回ぐらい開催していたようです。私が保健主事になったのは8年前ですが、そのころから少し回数を減らして質を高めていこうという傾向が増えてきました。いま私の学校では年に5回、いろいろなテーマを考えて学校保健委員会を開いています。

私も保健主事という仕事はどういう仕事かよくわからないで、養護の先生に教えていただきながらこの会を何とか続けたのですが、やればやるだけいろいろな面から新しいテーマや課題、可能性などが見えてきて、これは本気で取り組んで学校中を、地域を巻き込んでやる意義のある活動だと思っています。

吉田 たとえばどういう……。

熊倉 そうですね。本当にさまざまなテーマがある

のですが、スタートした時点では多分、健康診断をした結果から生徒の健康について語り合った、り、伝染病の予防というような形だったと思います。いろいろなことをやっているうちに、多様性のあるテーマに取り組むようになってきています。今私達が取り組んでいるのは、タバコの問題です。タバコの害については前年度勉強したので、タバコの誘惑を断るにはどうしたらいいのかということを経験学習を取り入れながら、学校保健委員会で話し合う予定です。タバコをやめられなかったお父さん、お母さんの意見も聞き、また中学生へのアドバイスもいただきながら、調べてみようかと考えています。今日は親御さん向けのアンケートを配りました。



吉田 瑩一郎先生

吉田 学校の教科の保健で学んだことを、実際に、日常生活で実践していくということで、保護者や地域の啓発に非常に役立っている。また中学の場合だと生徒指導の面からも、広く心の健康も含めた形で、大いに成果が期待できるのだというお話でしょうか。

熊倉 そうですね。保健の授業でちょうどタバコを取りあげてくださっているのです、その授業の成果ともからめて、学校保健委員会で来月取り上げていこうと思っています。

吉田 学校生活のことよりも、家庭や地域での生活に目を向けていくということですね。米元先生、いかがでしょうか。

米元 はい。実はお恥ずかしいのですが、いまの学校では学校保健委員会は、ありますがまだ一度も開催していない状況です。お話をいただいた時に本当

はお断りしたかったのですが、昨年度まで千葉県教委で「学校保健委員会をやりましょう。とてもいいですよ」ということを、研修会の中で、学校保健委員会の開催状況などを皆さんに研究発表していただいたりしました。多分その関係で呼んでいただいたのかと思い、こちらに伺う前に校長と少し話をしました。

なぜうちの学校は開催できないのか。千葉県での開催状況は、中学校では県全体で7割か8割しか開催していません。熊倉先生のお話を伺ってとても恥ずかしいのですが、いま子供たちや親に健康について危機感がない。そういうところでどうやって親や子供たちに健康に関する意識を高めていくかということが一番の問題だと思います。いま熊倉先生もおっしゃいましたタバコの害や、薬物乱用防止教室を昨年度から各学校でやっておりますので、できるとしたらそういうところで一緒に開催できるかな。いま先生のお話を聞きながら、今日はこれから私がどうしたらいいかということを勉強させていただくことにしました。

吉田 先生は教育委員会でいろいろ働きかけてこられたわけでしょう。千葉の70~80%という開催率は決して



米元 まり子先生

低くない、高いほうです。わたしの調査だと大体65%、多い県で70%ぐらいです。80%というのかかなりいいほうです。先生は教育委員会で、旗の振り具合がとてもよかったという話になるわけです。そういういいことがあるからやりましょうと言ってこられたんですか。

米元 実は千葉県は小さな町や村が結構あり、いま徐々に町や村あるいは、地域を挙げた学校保健委員会というのが増えてきています。都市部の学校では地域と学校が協力して子どもたちの育成をはかるための子ども会というものがなくなり学校と地域の密接した関係というのはなかなか難しくなってきました。しかし、千葉県は1つの町村に1中学校というところがたくさんあり、そういう小さな町村では中学校区での学校保健委員会を開催しています。そうすることによって、小学校から中学校と、子供たちを長い目で地域の人たちが見てくれるというメリットがあります。また、乳幼児検診などで、地域の

保健婦さんやお医者さんが、子どもたちが小さな頃からかわりをもっているの、保健所や保健センターとの連携を密にして、子どもたちを長い目で見ましょうということで、地域での学校保健委員会の活性化を図り、効果が上がってきています。

吉田 わかりました。千葉の場合は個々の学校のレベルだけではなくて、小学校と中学校が連携した地域学校保健委員会に発展させている。それは大変素晴らしいことだと思います。

いま、学校保健委員会をやらなければいけないという理由は何なんですか。上迫田先生。これは学校経営機能の一つでしょうかね。

○なぜ学校保健委員会なのか

上迫田 そうですね。まず学校保健委員会の前に、学校保健活動というのが学校で進められているわけです。学校は意図的、計画的あるいは組織的に教育活動を進めている。その目安、目標として学校教育目標があるわけです。たとえば、明るく元気な子を目指していこうとする。非常に多種多様の、具体的に言えば基本的な生活習慣を身につけている子とそうでない子がいるわけです。そういうさまざまな子供たちに対応する。その時に学校保健は大変大きな役割を果たしているわけです。

学校保健の中には保健教育と保健管理、組織活動という形があって、具体的に教科では保健教育の保健学習ということで進めていますし、また特別活動の中の学級活動で、保健指導というものをやっています。しかしこれらは学校の中だけで進められている状況です。先ほど言いましたさまざまな子供がいて、適切に対応するのが学校だけという場合もあります。したがって十分成果が期待できない状況もあるようです。

そこで、あるべき姿として地域の方や保護者の方々などみんなが集まって子供の健康を考えていくことが求められ、たとえば基本的な生活習慣を身につけさせるように、それぞれの立場で子供の生活を支援していくことが大切で、そういうことを理解し合う場が学校保健だと思っています。そういう観点からすると、学校保健委員会が学校教育に果たす、学校教育目標の具現化に果たす役割が極めて大きいと考えています。

吉田 学校教育目標を実現していくのに、学校保健の機能を大いに発揮させて、それに貢献していく。そういう大事なことがあるわけですね。いま、「元気よく」とか「明るく」「親切」「考える」、そういうことを教育目標に掲げていない学校があるのでしょうか。

上迫田 まずないと思います。

吉田 まずないでしょうね。それはみな健康の問題なわけだし、学校でもいろいろやっているのですが、学校生活の時間だけではこれはとても具現していくことは不可能である。だから家庭という学校、あるいは地域という学校の教育力をもう少し刺激していく意味で、学校保健委員会というこの組織を大事にしていかなければならない。こういうわけでしょうか。学校保健委員会はそれほど力を発揮できるのでしょうか。熊倉先生。

熊倉 いま上迫田先生のお話を聞いていて私も思ったのですが、社会も今の子供は「これじゃいけない」「何かおかしい」という不安感や心配を持っているし、家庭でも持っているし、教師自身も、みんな持っています。しかし、それを話し合って解決する場がなかなかないと思います。それを私たちの具体的な問題として浮き彫りにしていくのが学校保健委員会の役目ではないかと思います。

たとえば交通安全のことを取り上げた時に、子供の登校風景をビデオに撮ってみた。そうしたら下り坂のところで自転車のスピードが出ているとか、一時停止しないでどんどん行くとか、道幅が狭いとか、いろいろな問題が見えてきたわけです。そうすると親が、「じゃあ親も通学路についてもっと関心を持とう」とか、「区長さんにここはこうしていただく」と、具体的な行動目標も話し合いの中で出て来るような気がします。ですから、それぞれが抱えている漠然とした問題をもっと具体的なものとして確認して、そして次の行動目標にしていくというのが、学校保健委員会かと思います。

吉田 つまり、いろいろなことをお役所に、あるいは校長先生に要望するのではなく、健康や安全のために保護者はどうすればいいのか、あるいは子供たちが家庭の中で自分はこうしたらいいのかを見直して、より良くしていくための方法を見つけ出していく。そういう話し合いの場なので効果がある。こういうことなのでしょう。高崎市の場合は特にね。

○主役は子供と保護者と教師

熊倉 そうですね。スタートした時は専門家にお話を聞くという形で、校医さんの働きが大変大きかったと思います。校医さんに指導していただいたり、学校薬剤師さんや学校歯科医さんにいろいろなことを教えていただきながら私たちが学んでいくという形が長い間続いてきたと思います。最近では、たとえばエイズの問題や環境の問題では、お医者様に入ってくる知識と私たちのところに届いてくる知識が同時に、専門的な知識はもちろんお医者様のほうがあ

りますが、ここ何年かに起こった問題となるといっぺんに入ってくるわけです。ですから最近では、「子供たちはいまエイズに対してこう考えている」とか、「環境について授業の中でこういうことをやっている」と、新しい課題についてお互いが情報交換しあう場に、少しずつ変化しているように思います。

吉田 そうでしょうね。本当に家庭、自分たちの毎日の暮らしの中での健康を見つめ直して、それを改めていこうとする。このいき方は最近いわれるヘルスプロモーション。カタカナはいろいろあり、都庁では健康推進といっていますし、健康づくりといっています。とにかくヘルスプロモーションというのは、自分の健康を自分で守って、よりよく増進していくようにすることでしょうし、同時に、周りの家庭や学校、地域の人々や行政などが、そういう願いをかなえてやれるような環境を作っていかなければならない。そういうことになってくると、いまのような学校保健委員会の進め方は大変よろしいのでしょうね、上迫田先生。

上迫田 はい。学校保健委員会が開かれてその中に学校医の先生、学校歯科医の先生、学校薬剤師の先生、それに校長先生はじめ学校の代表の方々、保護者の方々、それに児童、生徒。こういった方々が一堂に会して、そしていまどんな問題が子供の中で起きているのか、どういうことを考えていかなければいけないのか、そういったことをみんなで理解し合う場。そしてそれぞれがそれぞれの機能を果たしていく。そのための理解を図る場が学校保健委員会であると思います。

ただ問題もないわけではありません。だれでもが求めている子供は、心身ともに健康な子供ですが、しかし子供によっては自分の一時的な感情でついよくないことをしてしまったり、友だちの誘いに乗ってしまったりすることがあるわけです。その根底には家庭の教育力、地域の教育力、また学校の教育力といったものが十分機能していないという問題があるわけです。したがって、この学校保健委員会という場がディスカッションしたり協議したりする場だけではなく、お互いの健康づくりをどのようにして進めていくかという積極的な活動を目指す場であることが必要です。そういう場であるとこれからは定義していかないと、学校保健委員会をただ開けばいい、ただやればいい、それだけに終わってしまう。やはり子どもの健康に生きて働く学校保健委員会をこれからは目指すべきであろうと思っています。

吉田 そうですね。米元先生、かなり学校保健委員会は様変わりしているように思います。いまお話を

伺っていると、主役は学校医、学校歯科医、学校薬剤師の先生ではない。主役は子供自身であり、保護者であり、あるいは毎日子供と接している先生であるという形に変わってきてるように思います。これであればこの学校でもやれそうですね。

○地域保健とのパイプ役にも

米元 そうですね。いま地域保健法が変わって保健所の役割がもっと身近な「保健センター」に変わってきました。保健所や保健センターで子供たちの健康を見守っていききたい、学校と協力してやっていきたいということがあります。保健主事の先生や私たち養護教諭がそのパイプ役になって、「学校はいまこういうことで困っている」「地域ではこういうことがあります」とお互いに連絡する。まだ、お互い思っていることがどこかで途切れてしまっているような気がします、そのいいパイプ役になればいいと思っています。

私の住んでいる市原市では、教育委員会からの学校教育指導の指針の基本課題の1つに、健康について自己管理のできる子供というのが、今年度から加まりました。各学校では、この指針をもとに、学校目標が設定されるわけですが、本校でも健康管理の習慣化を図るための具体策が出されています。このように、市や地域をあげて子どもたちの健全な育成に力をそそぎはじめています。

吉田 地域保健とのパイプ役としても機能できる話だということで、私は主役云々と申しましたが、決して三師の先生方が学校保健委員会におられなくてもいいということではなく、最高のアドバイザーとして、ぜひともいらっしゃっていただかなければならない。間違った方向に行った



熊倉 幸子先生

らいけないわけですから、三師の先生方は最高のアドバイザーの役割があります。

学校保健委員会は大変いいことがたくさんあるわけで、なくてはならない組織として機能していることは事実です。ただ、やっていないところは良さに気がつかないのだろうと思うし、また20～30年前の、何か学校に要望するタイプ、教育委員会に何かを望む要望型。あるいは学校医、学校歯科医、学校薬剤師の先生方の講演会型の委員会になるとか、何

かそのようなイメージがあるようです。もうそういうことはないわけですから、食わず嫌いにならないでどんどんやっていけばよろしいのではなからうかと思っています。

そうは言っても、ただやればいいといってもこれはなかなかいろいろ大変なこともあるのではないですか。熊倉先生、長い間なさっているいろいろご苦労もあるでしょう。

○時間設定の工夫

熊倉 学校が週5日制に向けて、行事の精選や見直しをしています。何しろ授業時間を確保したいということもありますので、学校保健委員会の時間は取りにくい。それから部活動の盛んな生徒たち、塾に一生懸命通っている生徒たちを、保健委員会の活動にどう参加させるかと言うのも、悩みの種です。

しかしその少ない時間を、計画をしっかりと立てることによって有効に使うことや、保健委員の生徒だけではなく給食委員、美化委員の、安全委員など、いろいろな生徒との関わりや、授業との関わりを生かすことが大切だと思います。時間のやりくりを工夫し、時間をかけすぎないでスムーズに軌道に乗せてやらなければいけない。いつもそのへんを考えているところです。

吉田 やはりいつやるかという時間の確保、時間設定が確かに隘路になるのかもしれませんが。これは学校経営上のいろいろな配慮ということがあるのでしょうが、どうなのでしょう。

上迫田 一番のポイントはやはり、どのくらい時間を取れるかということです。いろいろなことを話し合おうと欲張らないことが大切だと思います。長くても一時間半から2時間、短かければ1時間ぐらいで終わらせてしまうような計画をうまく組み立てて取り組んでいく。いま学校の先生方あるいは保護者の方々も大変忙しい。しかしたくさん参加していただきたい。そういうことを踏まえた時に、時間をどのぐらい持つかということがすごく大切になります。また、その時間帯をどこにするか。そういうことも一つネックになってくると思います。それぞれの学校で時間を工夫してこれを進めていく必要があります。この学校保健委員会を開くかどうかは学校教育目標を具現化できるかどうかという大きな問題に関ってくるわけです。そのぐらいの意識を、学校の校長先生はじめ保健主事の先生方が持っていただくことが非常に大事だと思います。

もう一つ大事なことは、いま保護者の方々も若い方が多い。自分の子供の健康問題をどう処理しているかわからない方々もいらっしやいます。学校保

健委員会の中で学校医の先生たちと顔を合わせて「あの先生に相談してみよう」、子供も「あの先生のところに行って話をしてみよう」ということも出てくると思います。これから総合的な学習の時間が設けられます。そういう時間をどのように活用していくかという時、推進する大きな母体にもなってくるということもあります。

吉田 そうですね。米元先生、時間の取り方はいまのお話ですと、学校教育目標の具現化という視点に立って、位置づけさえしっかりしていれば難しくないのだということですが、千葉県あたりの実態では大体時間や時間帯はどれくらいですか。

米元 1時間程度です。

吉田 1時間程度でしょうね。夕方が多いのでしょうか。

米元 夕方です。

吉田 午後から夕方ですね。4時……。

米元 地域によってはお医者さんの都合で5時以降というところもあります。また、開催できないという理由の一つに、校医さん、学校歯科医さん、学校薬剤師さん、すべてが揃わないとできないと考えている養護教諭、保健主事の方がたくさんいます。テーマによっては、欠席されても後日の報告だけでよろしいのではないかと思いますし、相談を受けた時はそのように話をしています。とはいっても、なかなか、すべての人が揃わなくてはいけないと思いこみがちで、なかなか開催しにくいということがあります。

吉田 もう少しテーマに即して弾力的に、あまり完璧主義でやろうとするとちょっとできにくいでしょうね。皆さんお忙しいわけですからね。

米元 もし参加できなかったらテープレコーダーでもビデオでも、いろいろな参加の仕方があると思います。そういうところを、相談を受けた時には「気軽にやろうね」と言う話をしています。

○議題に工夫を

吉田 それは大変やりやすいかもしれません。いまはこの学校も時間を取ってどこに位置づけるということが大変なのでしょうが、しかしいまのお話ですとそれほど難しいことではない。ただし、だらだら型で2時間も3時間もということではいけない。小学校であれば45分授業が定着しているわけですし、長くて1時間ぐらい。中学校でも60分ぐらいでやれるように工夫するということでしょうか。

そうなると議題の設定の仕方が大変大事になってくるでしょうね。よく、たとえば「生活習慣病対策について」とか、まるで議会でやるような議題を

作っているところがあるようです。こういうことではいけない。議題の設定なのはどうしたらいいのでしょうか。そのあたりが一つのコツかもしれません。

上迫田 そうですね。議題はできるだけ働きかけを促すような、具体的な議題がいい。たとえば「みんなで挨拶をしよう」ということだったら「じゃあどうい問題点があつて、それに対してどう取り組んでいこうか。どう工夫しようか」ということになるわけです。「歯みがきをしよう」ということだったら具体的になるけれども、「歯の健康」というような題になると非常に内容が広がってくる。ですから、働きかけを促すような議題を設定するというのも一つでしょう。

もう一つは、議題に基づく運営案を設定し、どう進めていくか、事前に保健主事さんは校医の先生等々と連絡を取り合う。特に校医の先生との連絡は、学校保健委員会があるから連絡を取るということではなく、日々の中で連絡を取り合う。そういう中で、学校保健委員会の打ち合わせもスムーズにいくだろうと思います。校医の先生たちと打ち合わせをしながら運営案を作っていくことが大切だという気がします。

吉田 見通しを立てておくということですね。確かな見通しを。

熊倉 そうです。まずは年間の見通し、その会の前後の見通し、それから当日の見通しです。私はちょっとメモを作って会議に臨むようにしています。

私の学校では保健主事が主に司会をしますが、時には生徒が司会者になることもあるし、保護者のほうから問題提起がある時には保護者が司会者になることもあります。その時も簡単な運営案があると、そうまごまごしないで司会ができると思います。

それから、会に出られない学校職員に、「こんなことをしました」ということをわかっていたために運営案は意味があります。また、それが積み重なると「去年の歯のテーマの時には主に嘯むことをやったんだ。一昨年は歯磨きをやった。その前は歯周病のことをやった。そうしたら今度は、治療勧告をもらってもなぜ歯医者さんに行かないのだろう。治療に行かないその理由は何だろう」ということを取り上げようと記録が残ると、同じテーマでも違う角度から新しい視点が出てくるので、良いような気がします。

吉田 そうすると、議題の工夫はもちろん、初めから終わりまでのおおよその展開の計画みたいなものはあつたほうがいい。効率よくやるにはやはり一定の見通しがあつたほうがいいということなのでしょう。

うか。

熊倉 意見を出しにくくて沈黙している時間というのが非常にもったいない気がするのです。ただ、あまり詳しく決めすぎてしまうとそれはまた形式的になってしまいますから、話が脱線したり方向が変わってしまってもそれはそれでいいと思います。お互いににらめっこしている時間を少なくするためには、ある程度の流れも捉えておいたほうがいいと思います。

○議長・司会者の人選も大切

吉田 そういう工夫がすごく大切ですね。米元先生、チェアマンもたいへん大事なのではないかと思います。保健主事がやることもあるけれど、中味によっては中学生であれば生徒にやってもらうこともある。保護者の保健委員のほうから出ていただくこともあるという熊倉先生のお話ですが、そういう工夫も大事なのでしょうね。

米元 以前の学校ではやはり生徒が発言をしたり、生徒中心に学校保健委員会を開催したことがありました。参加できなかった校医さんにはビデオで参加していただいたりテープで参加していただいたりしました。やはり一言、専門の先生のお話は、子供たちやお母さん方にはとても新鮮なことなのです。みんなが主役だよということが大事で、それぞれ自分の問題として捉えることができるかと思います。

吉田 参加した人たちが「ああ、保健委員会っていいものだ」と思っていたかなければならない。一人ひとりの委員の方々が、自分が主役だという意識を持っていたくんです。それは運営上、議長として、非常に大事なことなのでしょうね。

米元 はい。あとメリットは、いままで面識がなかった方、たとえば地域の方、補導員の方、民生委員の方を保護者の方にもわかったりする。お互いの出会いのチャンスが一つ増えたということが、学校保健委員会を開催するメリットとなると思います。

吉田 そうでしょうね。やはり「また行こう」という気持ちが起こる運営の仕方。これは大事なことでしょ。よく、先生方が議長や司会をやったり、場合によっては保護者のお医者さんがなさることがあるなど、いろいろなケースがあります。どうも先生と名がつく人の議長や司会というのは、何か、集まっている人が生徒になってしまうのです。ですから会議にならないで、ご無理ごもっとも、叱られているような、授業を受けているような感じになる。上迫田先生、これは気をつけなければならないことかもしれませんね。

上迫田 確かにそのとおりだと思います。特に、い

ま学校保健委員会の活性化を図るには子供が主役、保護者が主役になることだと思います。たとえば子供が自分たちの生活の調査をし、いろいろデータをまとめ、そしてそれを保護者や皆さんの前で発表する。そういう子供の姿を見たら、参加している方々も「子供がかんばっている。私たちも何とかしなければ」と、きっとそういう気持ちになられるのではないのでしょうか。そういう子供の活動を委員会の中にも活かしていただいて、「みんなで子供を応援していこう、支援していこう」という雰囲気を作っていくことが大切なのかなという気がします。

○ネーミングにも工夫が

吉田 このごろ、学校保健委員会なのだけれどうちの学校は「健やか会議」にしようとか、「何々中学校健康会議」にしようとか、そういう学校もありますね。「すくすく委員会」「はつらつ会議」とか。千葉あたりにもあるのではないですか。

米元 楽しいネーミングにするとまた参加しようというところが出てくるかと思います。

学校保健委員会ではないのですが、本校の美化委員会を「ひまわり委員会」だとか、学習委員会も「大空委員会」などと、素敵な名前をつけて活動しています。千葉県内にもいろいろなネーミングをつけている学校保健委員会があります。

吉田 埼玉も最近随分多いのですか。

上迫田 そうですね。「健康委員会」とか「太陽の子フォーラム」とか、「はつらつ委員会」。そういったものが多くなっていて、子供のほうからこういう名前にしたいと申し出てきたという話も聞いています。そういう、子供が自分たちの健康を話し合う、自分たちの健康を作っていく一つの場であるという意識がわいてくると、一層活性化が図られるのではないのでしょうか。

吉田 何かこう、受け身ではなくて……、健康というのは本来明るいものでしょう。疾病の早期発見、早期処置もすごく大事なわけですが、いま一次予防の時代になってくると、それなりのイメージチェンジが必要なのではないかという気がしてならないのです。

両先生は中学です。小学校の先生方は、せっかく



上迫田 健二先生

歯みがきでも何でも学校で一生懸命やったけれども、中学校に行けば心配でしょうがない。小学校では学級活動の保健指導でも学校保健委員会でも立派にやるのだけれど、中学校に行けば心配だということです。そういうものなのでしょうか。

○学校間・校種間の交流も活発に

熊倉 ただ、小学校の先生の成果が中学校に残っているかと思うこともあるのです。それは、保健委員を小学校でしていたことがある生徒がクラスにいと、いま保健委員ではなくてもたとえばエイズに関する勉強会をした時などの活躍の仕方というか、授業の推進力に非常によくしてくれます。何でもこなすように知っているのかなと思ったら小学校の時保健委員だったとか。それから、保健委員という仕事に目覚めると言うとおかしいですが、その楽しさに気づいてくれて、高校生になってもやはりまた保健委員になってくれた子供。保健委員はうちの学校も仕事が多くて嫌がられたりしますが、なかには本当に保健が好きになってくれてまた保健委員になろうとか、高校生でもなったという子も何人が育っていく。やはり先ほど話が出ましたが、健康の問題を考えることは生きることを学ぶことだし、楽しく生きることを学ぶ手段ですから、楽しい活動のわけなのです。その楽しさに本当に気づいて生き生きと活動できた子は、私たちの手から離れても自分で自分を守る子供に育ってくれるのかなと思います。

吉田 いや、いいお話ですね。高崎は小中学校と、これはびっくりするのですが、4月に市内全校の学校保健委員会の開催スケジュールが一覧表で配られるのです。どこの学校は何月何日、どういうテーマでやるかというのが一覧表で配布されますから、お互いに交流もできるわけです。高校の先生が中学校の学校保健委員会に参加できるわけです。開かれた学校というのはまさに学校間の交流、校種間の交流をどうするかという側面もあるわけでしょう。いま大変いいお話を伺いましたが、中学校の学校保健委員会には小学校と高校からも、組織上の配慮として、校長先生、それは大事な点でしょうね。

上迫田 そうですね。たとえば小学校でも地域の町会の方、あるいは幼稚園の方にも来ていただくということが当然必要ですし、同じように中学校でも必要だと思います。そういう形が取れるような一つの組織というのが今後できてくる必要があるし、また校長としてはそういうところにも意を注がなければいけないと思います。そうなってくると、地域全体の中で子供を育てていくという状況に変わっていくように思います。

健康に生きることを学び合う場として

吉田 ありがとうございます。最後に一言ずつ、学校保健委員会をこうすればいいというご提案、ご提言を。

米元 気楽にたくさんの方が参加できるテーマと時間の設定をして、「皆さんどうぞ」という学校保健委員会にしたいと思っています。

熊倉 学校医先生、学校歯科医の先生、学校薬剤師の先生を中心にしながら、養護の先生、栄養士さん、カウンセラーの先生などみんなの力を合わせていく。それに地域のお年寄りの方や福祉施設の方、商店街の方など、いろいろなところで生きることを一生懸命やっていたら方を学校保健委員会にお招きして、お互いが学び合う場にしていけるのではないのでしょうか。

上迫田 主体的に学び主体的に考える、生きる力を育むということで、総合的な学習の時間が今後位置づけられてきます。自ら課題を見つけ、考え、主体的に判断して、問題をよりよく解決していくということ。そういう時の調べ活動などは、学校保健委員会ののはたらきがその子供の要求に応えられるような場になっていけばいいと思っています。

吉田 ありがとうございます。本当に短い時間でしたが、いろいろポイントをお伺いすることができました。これなら学校保健委員会はうまくいきそうだという確信を持たせていただいたように思います。本当に、やはり楽しい、楽しくまでいかなかった「ああ、行ってよかった」という、何かそういう満足感。それには皆さん一人ひとりが主役になれるような、そういう委員会になれば成功していきだろう。そして、学校の中よりも学校の外のことがよくなっていくように、そういう議題なり運営の工夫をしたら、本来の学校保健委員会の役割が活性されていくのかなと感じました。ありがとうございます。



北から南から

宮崎県学校保健会の活動

(宮崎県学校保健会事務局)

本会は、学校保健の研究ならびに普及推進を図ることを目的に、昭和27年に発足した。学校医・学校歯科医・学校薬剤師・校長・保健主事・養護教諭・学校栄養職員等の7部会で構成されている。

本年も、児童生徒の心と身体の調和のとれた成長を目指して事業を推進している。

1.平成10年度の努力目標

- (1)宮崎県学校保健会と地域学校保健会が連携・協力し、学校保健・安全の充実に努める。
- (2)各専門部会の研究活動の充実に図り、学校保健・安全の研究推進に努める。
- (3)学校保健組織活動を推進し、学校保健・安全の充実に努める。

2.本年度の重点施策

- (1)関係各機関の連携強化。
- (2)薬物乱用防止教室の開催。

3.主な事業

- (1)各専門部会の調査研究活動の推進。
- (2)大会の開催。
- (3)各種研究大会・研修会等への派遣。
- (4)関係機関との連携。

京都市学校保健会の活動

(京都市学校保健会事務局)

京都市学校保健会は、昭和40年1月に設立し、学校医、学校歯科医、学校薬剤師、校長、保健主事、養護教員、保健教育、安全教育、PTAの9つの部会で構成し、活動している。

1年間主な事業は次のとおり

1.学校保健研修会

PTA・学校保健関係者を対象に、児童・生徒の健康の保持増進と安全の確保を図るため、各方面から講師を招き、研修会を開催している。

2.学校保健協議大会

3つの分科会により、学校保健・安全に関する

テーマを設定し、PTA・学校保健関係者がそれぞれの立場で提案及び協議する。

3.学校保健研究発表会

学校保健・安全の当面する課題についての研究発表や、児童生徒及び保護者が健康や安全に関する生活実践記録の発表を行っている。

4.その他

学校保健及び学校安全の普及と向上に関し、優秀な成績をあげた個人並びに学校を表彰している。

また、「京都の学校保健」の年3回の発行や学校保健研修会等の1年間の活動内容を掲載した集録を発刊している。

山梨県学校保健会の活動

(山梨県学校保健会事務局)

本会は、昭和21年に発足し、10郡・市学校保健会と1つの高等学校保健会及び7部会（校医、歯科校医、学校薬剤師、校長、教頭、保健主事、養護教諭）から組織され、事務局は県教育庁スポーツ健康課が務めている。

主な事業

○ 児童生徒健康実態調査事業

毎年実施する定期健康診断の結果に基づき、児童生徒の体格、疾病異常の実態を調査・研究し、その結果を報告書にまとめ、児童生徒の健康の保持増進のための基礎資料として、各学校及び学校保健関係者に配布し情報提供を行っている。

○ 児童生徒心臓検診事業

昭和63年度より、児童生徒の心臓疾患による事故防止のため、心電図検査の結果から心電図に異常が認められた児童生徒の判定及び調査・研究を県医師会に委託し実施している。

○ 機関誌の発行

「すこやか」を年1回発行し、各学校保健関係者への情報提供を行っている。

対応は早めにお願ひします

—コンピュータ西暦2000年問題—

- コンピュータの機器やプログラムなどが、西暦2000年以降の日付に対応していない場合には、コンピュータ・システムの停止や誤作動などのトラブルが発生することになります。
- 「コンピュータが正常に動かない」ことは、国民の生活上に大変大きな不都合を生じさせるばかりではなく、インターネットなどを通じて海外と通信する際には、先方に迷惑をかけることにもなりかねません。これらを防止するためには早めに機器の更新やプログラムの修正などの対応が必要です。
- 現在の文部省を含めた政府全体の取組みの状況は、地方公共団体や民間企業などにも同様の御協力をいただきながら、コンピュータ・システムについて計画的に総点検を行い、問題点があればそれを修正して、確認のためのテストを行うなどの対応措置を進めております。
- 皆さんもこの機会に、勤め先や学校、自宅などにあるコンピュータは大丈夫かどうか、点検されてみてはいかがでしょうか。(文 部 省)

平成10年度 叙勲された学校保健の功労者

《春》

◎ 学 校 医

〈勲5等旭日章〉

阿部 喜男 (鳥 取) 佐々木芳岡 (山 梨)
古澤 久英 (長 野)

〈勲5等瑞宝章〉

金子榮美也 (群 馬) 佐木山達男 (大 阪)
佐藤 淳 (宮 崎) 富永 健 (福 島)
本多 傳 (静 岡) 横田 耕一 (滋 賀)
渡邊すみえ (神奈川)

◎ 学校歯科医

〈勲5等瑞宝章〉

葛西 金治 (青 森) 近藤 一明 (広 島)
鈴間 満 (和歌山) 杉田郁二郎 (茨 城)
高森 三利 (長 崎) 中村 昭治 (石 川)
長塚 元男 (千 葉) 橋本和起子 (岡 山)
平林 瑛一 (愛 知) 平田 正行 (香 川)
肥後 丸海 (鹿児島) 森 富榮 (埼 玉)
森 顯義 (徳 島) 安井 一雄 (京 都)
米倉 俊夫 (宮 城) 今井 菊雄 (岐 阜)

◎ 学校薬剤師

〈藍綬褒章〉

中島正次郎 (東 京)

《秋》

◎ 学 校 医

〈勲5等瑞宝章〉

安部倉敏男 (島 根) 大木 誠止 (千 葉)
小嵯 一旺 (大 阪) 菊池 道政 (岩 手)
坂梨 ミチ (宮 崎) 澤 重康 (徳 島)
高橋 信男 (高 知) 高嶋 顕信 (富 山)
田嶋 博 (秋 田) 富田 俊夫 (愛 知)
長嶋 昭 (埼 玉) 藤村 敦宜 (広 島)
堀内 三子 (長 野) 松本 盛雄 (三 重)
松尾 準三 (和歌山) 武藤 輝男 (茨 城)
八木 徳安 (静 岡) 山田 守 (岐 阜)

◎ 学校歯科医

〈勲5等旭日章〉

原 善兵衛 (新 潟)

〈勲5等瑞宝章〉

荒川 省三 (石 川) 有馬 和弘 (滋 賀)
大内 武一 (宮 城) 笠間 行雄 (群 馬)
小林 正仔 (山 口) 中村 供一 (岡 山)
溝越 威夫 (長 崎)

〈藍綬褒章〉

櫻井 善忠 (東 京)

第48回 全国学校保健大会 文部大臣表彰の個人・学校・団体

◎ 学 校 医 (48名)

高橋 栄徳 (北海道) 岡本 壽一 (北海道)
小野寺俊夫 (岩 手) 塚本 健治 (宮 城)
赤羽 知二 (栃 木) 神山 照秋 (群 馬)
吉田 忠 (東 京) 竹内 隆治 (東 京)
木島 俊夫 (神奈川) 山田 幸一 (新 潟)
奥脇 晴雄 (山 梨) 小島 津彦 (長 野)
高柳 泰世 (愛 知) 門脇 一彌 (三 重)
古畑 文男 (京 都) 田中 信人 (大 阪)
藤木 茂 (和歌山) 中島 雪夫 (島 根)
國近 満男 (山 口) 森 一道 (徳 島)
石川 秀雄 (福 岡) 鈴谷 悦堂 (長 崎)
杉本 潜 (宮 崎) 高山 正己 (宮 崎)

栗村 洋一 (北海道)
管野 若夫 (福 島)
福島 紀夫 (千 葉)
池袋 良樹 (神奈川)
槻 陽一郎 (富 山)
藤城 郁男 (岐 阜)
浅嶋 啓三 (滋 賀)
千頭 隆 (兵 庫)
小坂 靖彦 (岡 山)
酒井 朝生 (香 川)
行徳 勝明 (熊 本)
外山 寛樹 (鹿児島)

木村定一郎 (青 森)
佐藤 忠夫 (茨 城)
杉田 弘 (千 葉)
鈴木 健一 (神奈川)
太田 長治 (石 川)
中野 駿児 (愛 知)
藤川 達明 (京 都)
大手 信重 (奈 良)
宮木 睦雄 (広 島)
岩村 利衛 (高 知)
後藤 弘二 (大 分)
宮城 梓 (沖 縄)

◎ 学校歯科医 (43名)

鏡 新泉 (北海道) 奥田 茂 (北海道)
米澤 澄 (宮 城) 米谷 重信 (宮 城)
児島二二也 (群 馬) 内野昭八郎 (埼 玉)
森永 太悟 (東 京) 三宅 正代 (神奈川)
成瀬 達雄 (富 山) 遠山 兵太 (山 梨)
藤井 宏次 (愛 知) 中西 久 (滋 賀)
上村 正彦 (大 阪) 稲田 秀雄 (大 阪)
森本 省悟 (和歌山) 秋山富三郎 (鳥 取)
山田 隆一 (広 島) 秋田 哲郎 (徳 島)
辻 政博 (福 岡) 福成 義孝 (佐 賀)
若林寿美子 (宮 崎) 児玉 利徳 (鹿児島)

黒田 雅行 (青 森)
吉沢 清忠 (秋 田)
寛 正忠 (千 葉)
高橋 韶光 (神奈川)
三澤 義人 (長 野)
野添 静里 (京 都)
正井 洋兒 (兵 庫)
富永 睦恵 (島 根)
岡西 静雄 (高 知)
川島 利生 (長 崎)
又吉 達雄 (沖 縄)

天日 常光 (岩 手)
迎田 稔 (山 形)
石川 行男 (東 京)
山中 観一 (新 潟)
中村 栄司 (岐 阜)
長谷 三郎 (大 阪)
岩橋 勳 (和歌山)
櫻井 洋 (岡 山)
別府 正敏 (福 岡)
北田賢次郎 (熊 本)

◎ 学校薬剤師 (21名)

高島 申治 (北海道)
生方 資敏 (群 馬)
杉下順一郎 (東 京)
森崎 繁治 (愛 知)
棚田 一郎 (広 島)
臼杵 實生 (大 分)

久保内重光 (青 森)
白石美智子 (埼 玉)
岩本 成夫 (神奈川)
津田 麗子 (大 阪)
岩井 宏之 (香 川)

中川 一枝 (茨 城)
林 睦子 (千 葉)
橋本 君子 (石 川)
才新 正也 (大 阪)
細井 徹一 (福 岡)

牛久 宗重 (栃 木)
倉本 鉄司 (東 京)
野田 孝 (静 岡)
山本 治助 (兵 庫)
寺戸 壽雄 (佐 賀)

◎ 学 校 長 (3名)

廣瀬 勝一 (兵 庫)

中西 研二 (兵 庫)

上野 博美 (奈 良)

◎ 養 護 教 諭 (1名)

知念 節子 (沖 縄)

◎ 学 校 (8校)

栃木県佐野市立植野小学校
静岡県浜松市立与進小学校
愛媛県生名村立生名中学校

東京都豊島区立高南小学校
鳥取県鳥取市立末恒小学校
長崎県佐世保市立潮見小学校

福井県坂井町立大関小学校
愛媛県松前町立北伊予小学校

◎ 関 係 団 体 (1団体)

東京都杉並区学校歯科医会

平成10年度 第37回全日本学校歯科保健優良校表彰校

平成10年度 (第37回) 全日本学校歯科保健優良校表彰は、平成10年11月19日那覇市で行われた。第62回全国学校歯科保健研究大会にて、全国より91校の応募があり、最優良校6校に文部大臣賞、特別賞9校に日本歯科医師会会長賞が授与された。

◎ 文部大臣賞 (6校)

千葉県柏市立旭小学校
大阪府堺市上神谷小学校

埼玉県大宮市立桜木小学校
高知県南国市立稲生小学校

岐阜県瑞浪市立日吉小学校
沖縄県那覇市立城岳小学校

◎ 日本歯科医師会会長賞 (9校)

山形県酒田市立琢成小学校
群馬県立前橋市立城南小学校
愛知県阿久比町立英比小学校

福島県福島市立福島第一小学校
東京都江東区立第一大島小学校
愛知県名古屋市立桶狭間小学校

栃木県大田原市立薄葉小学校
神奈川県平塚市立崇善小学校
大阪府大阪市立中津小学校

(敬称略)

虎の門 (48)

看護は感護

母 (76歳) が病いで倒れた。予断を許さぬ状況であることを知り、介護休暇をとり母に付き添った。一時退院後、再入院した時は、まだ自分でトイレに行っていた。それが3日後には、自分からポータブルトイレを使いたいと言い出した。自宅では側に置いてあっても決して使おうとしなかった母である。やがてポータブルトイレさえも使用出来ず、ベット上で排便をせざるを得ない状態になった。

便意を訴えることも少なくなり一週間間隔で浣腸をし出すようになった。紙オムツをあて、そこにするのである。母は看護婦さんに始末してもらう時、「恥ずかしい…」とつぶやいた。看護婦さんは「大丈夫よ」と言いながら手早く片付けてくれた。食事も、私達が口へ運んであげる様になった。母は「何を食べようか迷わなくて済み、楽でいい」

等と言いながら、目尻に涙をためていた。

亡くなる寸前迄意識がしっかりしていた母の心情を思うと切ない。

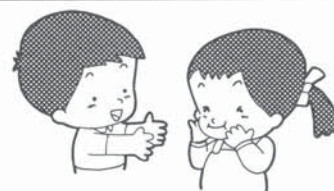
「看護婦さん達によくお礼を言っ
て」と言い残した母。看護は感護
であると思った。患者の身になっ
て世話をしてくださった看護婦さ
ん。温い感護をありがとうございました。

(富川 佑子)

育ちざかりのひと粒!

目・歯・骨を大切に……

ゼリー状ドロップ剤



カワイ肝油ドロップ



河合製薬株式会社

東京都中野区中野6-3-5

応急用酸素吸入器

オート

O₂パックA型

- 医療用具承認番号(62B)第519号(医家向および家庭向)
- 標準小売価格/9,800円(税別)

- 本体サイズ 径90mm×高さ250mm
- 本体重量 900g
- 使用時間 12分(1回限り使い捨て)
- 酸素流出量 3.0ℓ/分
- 酸素総流出量 36ℓ以上



緊急の呼吸困難に備える
学校の常備品です。

プール・運動時における
突然の呼吸困難時に――

〈カタログ御請求下さい〉



ミドリ安室株式会社

本社/東京都渋谷区広尾5-4-3 〒150
電話/東京03(3449) 9 9 0 2
キューキューオート

多人数のうがい励行に

コロロ®自動うがい器

CO-SS型

- マイコンで機器内配管を自動洗浄
- うがい薬コロロ®のB.I.B(Bag In Box)交換式を採用

お問い合わせは

サラヤ株式会社 06(6797)2525 東京サラヤ株式会社 03(5461)8100



学童の集団検尿に、 エームス尿検査試験紙。

エームス尿検査試験紙

ネフロスティックズ-L

体外診断用医薬品

バイエル・三共株式会社

東京都中央区築地6丁目19番20号

販売元:

三共株式会社

東京都中央区日本橋本町3丁目5番1号 〒103 ☎(03)5255-7111

JU1694-S